

令和6年度第1回さいたま市商業等振興審議会
会議録

- 1 日 時 令和7年1月29日（水曜日）午後2時00分～午後3時20分
- 2 会 場 市役所 8階会議室
- 3 出席者 阿部委員長、上田副委員長、染谷委員、石川委員、田中委員、尾倉委員、小池委員
川端委員、羽田委員、神田委員、金子委員
欠席者 山崎委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 次第
 - (1) 開会
 - (2) 委員及び事務局紹介
 - (3) 委員長・副委員長選出
 - (4) 議事
 - ①さいたま市商店会連合会からの要望書について
 - (5) その他
 - (6) 閉会

【議事概要】

- (1) 開会
- (2) 委員及び事務局紹介
- (3) 委員長・副委員長選出

さいたま市商業等振興審議会要綱第2条2項の規定に則り、委員の互選により、阿部委員が委員長に選出され、上田委員が副委員長に選出された。
- (4) 議事
 - ①さいたま市商店会連合会からの要望書について

阿部委員長の議事進行により、事務局から資料1に基づき「さいたま市商店会連合会からの要望書」の趣旨について、資料2に基づき商業振興事業に係る予算について説明があった。

加えて、さいたま市商店会連合会会長である染谷委員及び副会長である石川委員並びに田中委員より、以下のとおり補足説明があった。

(染谷委員)

さいたま市内でも商店会自体が減少している。経営者の高齢化や後継者不足、来街者の減少などの課題を抱え、厳しい状況にある商店会も多い。そんな中、商店街街路灯等電気料補助事業の補助率 10/10 は大変ありがたく、ぜひ継続していただきたい。

商店街活性化キャンペーン事業補助については、令和 6 年度より新型コロナウイルス感染症拡大前の補助額に戻ったことにより、事業規模を縮小し参加費を有料に戻したところ、参加店舗が減少したが、本事業は市内商店街の振興に非常に大きな役割を担っているため、引き続き事業の補助をお願いしたい。

また、商店街街路灯の撤去について、現在は補助が存在せず、商店会にとって大きな負担となっていることから、補助対象としていただけるよう検討をお願いしたい。

エネルギー価格・原油原材料高騰の影響も大きく、市には様々な経済対策を講じていただきありがたい。しかし未だ厳しい状況にあることから、事業者向けのさらなる支援策を検討していただきたい。

(石川委員)

商店街街路灯は安心安全なまちという点でも重要なものであり、電気料の補助率 10/10 はぜひ継続していただきたい。

商店街活性化キャンペーンについては、補助の継続をお願いするとともに、商店会としても消費者への声掛けなどががんばっていききたい。

(田中委員)

商店街街路灯等電気料の全額補助は大変助かっており、この負担が軽減されることで、商店会としてにぎわい創出に目を向けることができる。昨年度と比較して電気料はかなり高騰していることから、ぜひ補助率の維持をお願いしたい。

その後、次のとおり質疑が行われた。

(上田委員)

街路灯の電気料や撤去費用は市場価格によるもの。商店街街路灯は安全面でも必要とされていることから、インフラ整備についてはぜひ補助制度を整えていただきたい。時代の流れで再生可能エネルギーの活用が求められており、国等の補助を活用できるものもあるため、商店会でも新しいものを取り入れていただきたい。

(事務局)

再生可能エネルギーについて商店会が活用するものがあれば応援したい。他市の事例も研究しながら注視していく。

(小池委員)

昨年度に比べて電気代や人件費などが高騰しており、非常に厳しい状況。経済活性化のため、行政にはぜひ支援をお願いしたい。

(川端委員)

商店街街路灯はまちのインフラの役割があり、安心安全という面でも電気料の補助はすばらしい

事業。他方でエネルギー価格・原油原材料高騰の影響は皆が受けているものであり、自立していく必要がある。街路灯の維持管理・撤去費用の確保が厳しいという話もあったが、後継者問題の解決及び活性化のための根本的な対策が必要。新しい人に商店会に入ってもらい、その方々が商店会を支えていけるとよい。県の施策として空き店舗活用のトライアルがあるが、商店街の活性化・持続的な商店会の発展のための根本的な政策をお願いしたい。

(染谷委員)

空き店舗については、飲食に強い商店会等はすぐに次の店舗が入るが、駅から離れた店舗など活用しにくい場所もある。

(田中委員)

空き店舗の活用は成功している事例もある。日替わりで様々な店舗が入っているものや、市の事業を活用したもの等があり、少しずつ良くなっている。また、まちゼミ等も行っている。

(事務局)

空き店舗活用型の補助事業もあるが、現在は利用がない。商店会が利用しやすい事業を引き続き研究していきたい。

(阿部委員長)

商店会の状況は千差万別であり、一つひとつの商店会から丁寧に話を聞いて課題を解決していくことが理想的。

(尾倉委員)

商店会組織の維持存続は、以前からの長期的な課題と認識している。地方は非常に厳しい状況だが、さいたま市はこれからの工夫次第でプラスにしていけるポテンシャルがあると考え。商店街は買い物をするだけの場所ではなく、地域の人々の交流の場であり、インフラであり、「まち」としての機能がある。要望事項はこのような機能をより良くしていくということも含まれており、今回このように前向きな議論ができているのがありがたい。

(事務局)

市としても、商店会はまさにコミュニティの核となることから、補助を行っている。ぜひ前向きに議論をお願いしたい。

(神田委員)

犯罪対策として、街路灯等の予算は撤去費用も含め最優先であると考え。地方は十年、二十年前からシャッター街化している。商店街は、街路灯が消えて暗くなると、行きかう人々がなくなり、負のスパイラルでシャッター街化が加速していく。また、商店会の存続には世代間のコミュニケーションが必要と考える。さいたま市はまだまだ若い世代も多く、駅の近くに場所があれば若い世代の会社員等と高齢化した商店会の人々の交流ができると考える。交流の場というハード面とその場所で行うコンテンツというソフト面を組み合わせ、世代間のコミュニケーションができれば、商店街がより良いコミュニティとなるのではないかと。

(石川委員)

商店会としても研究・勉強をしており、最近も新しい人が入った。若い人に地元へ来てもらえるよう婚活イベント等も実施し、コミュニティの場を作っている。人材不足で難しいこともあるが、若い人の意見を聞きながら少しずつやっていきたい。

(羽田委員)

地域と学生の連携による活性化のプロジェクトを他市で実施している。学生が市役所の職員とともにフィールドワークを行い、SNSで発信している。短期的に成果を出すことは難しいが、若い世代が地域に関心をもってもらうきっかけとなり、長期的な地域の活性化、商店会の存続につながる。人口規模という観点から、さいたま市は学生との連携についてまだまだ拡大の余地があると考ええる。

(染谷委員)

商店会は、会員の年齢層によりSNSでの発信は苦手分野であり、教育が必要。

(神田委員)

昨今はデジタル化、DX化が進んでいるが、商店街活性化キャンペーンでは「さいたま市みんなのアプリ」との連携は検討しているか。

(事務局)

少しずつアプリの活用は増えており、商店街活性化キャンペーンとの連携も考えていく必要があると認識している。なお、デジタル化という点では、本キャンペーンでは二次元バーコードからの応募件数が増加している

(田中委員)

来年度の商店街活性化キャンペーンでは、景品においてさいコインと連携する方向で検討している。

(川端委員)

過去の審議会において、商店街活性化キャンペーンを地元還元される仕組みにしてはどうかと発言したことがあったが、今年度のチラシを見ると市内に還元される景品が入っており、より地元へ利となるよう尽力されていることがわかり、よい取り組みである。

(羽田委員)

「さいたま市みんなのアプリ」について、インフラとして機能するために多くの市民及び店舗に使ってもらう必要があり、ぜひ市にはアプリの普及及び認知度の拡大にご尽力いただきたい。